



## Contents

- 1 学長年頭所感
- 2 明海スポーツ
- 3 不動産学部が研究交流及び専門人材の育成協力に関する協定を締結
- 4 歯学部教員の研究成果と学会受賞が相次ぐ
- 5 ウェスタンケープ大学が来学
- 6 中国語スピーチコンテストで入賞
- 7 浦安キャンパス 公開講座開催
- 8 明海大学病院人間ドックふるさと納税返礼品

## 学長年頭所感

# 2026年明海大学の歩む道

学長 中鳩 裕

2026年「丙午」の新年を迎えました。「丙午」には、「これまで培ってきた努力が形となり、物事が大きく伸びていく」との意味があるそうです。明海大学の学生・教職員の皆様、そして同窓会、教育後援会、自治体や企業をはじめとして明海大学を支援してくださる多くの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、物価高やエネルギー価格の変動、急速なデジタル化の進展など、社会の先行きが見通しにくい1年となりました。そのような中で大学には、学生が安心して学びを継続できる基盤を整えるとともに、社会の変化を理解し、多様な視点を育む学びを提供することが求められています。本学ではこうした状況を踏まえ、浦安キャンパスの講義棟の一部を整備して、学修や就職活動を支える環境のさらなる充実を図ってまいりました。また、地域・企業・海外大学とのつながりも着実に広がっています。浦安商工会議所との包括連携協定や株式会社センチュリー21・ジャパンとの産学連携協定、イタリア・シエナ大学との学術交流協定の締結など、多様な連携を通じて社会や世界とつながる学びを強化しております。明海大学病院では、「歯科医科連携人間ドック」が坂戸市のふるさと納

税返礼品に採用され、地域医療への貢献の幅がさらに広がりました。

2025年度より開始した浦安キャンパス市民講座は、「開かれた大学づくりの推進」を体现する取り組みとして4回にわたり実施し、多くの地域の皆様にご参加いただきました。大学の教育資源を社会へ還元し、地域とともに歩む本学の姿勢を示すものとなりました。

昨年は教育・研究・課外活動の各分野で明るい成果も見られました。歯学部では教員が学会で複数の賞を受賞するなど、研究力の高さが改めて示されました。また、体育会女子バレーボール部が全日本インカレで本学史上初となる第3位に入賞し、学生の挑戦と努力が大きな実りとなりました。

これらの成果を礎に、教育体制の面でもさらなる充実を図っております。今年度より不動産学部が「社会デザイン専攻」と「不動産鑑定専攻」の2専攻制を導入し、学生の将来に応じた専門的な学びが着実に深まりつつあります。本学全体としても、社会が求め人の材像の変化を踏まえ、より実践的で多

様な学びを提供できるよう、教育内容や学修環境の充実に継続して取り組んでおります。

2026年においても、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」で示される教育研究体制の柔軟化や地域連携の深化などの社会的要請を踏まえ、教育・研究・医療の質を一層高め、常に進化し続ける大学をめざしてまいります。また、ステークホルダーの皆様にご満足いただける魅力ある大学を確立するべく、6学部8学科および4大学院研究科のさらなる発展を教職員一丸となり実現する所存ですので、お力添えのほど宜しくお願いいたします。



中鳩裕学長

# 明海スポーツ MEIKAI SPORTS

全国大会で歴史的快挙

体育会公式ホームページ <http://meikai-sports.jp>

体育会女子  
バレーボール部

全日本インカレ  
3位入賞!

天皇杯・皇后杯  
ファイナルラウンド進出!

秋季リーグ  
準優勝!

第72回秩父宮妃賜杯全日本バレー ボール大学女子選手権大会で堂々の3位入賞!!



日本インカレ時の女子バレー ボール部

体育会女子バレー ボール部は、12月2日から7日にかけて行われた「第72回秩父宮妃賜杯全日本バレー ボール大学女子選手権大会ミキフルーンスースパーカレッジバレー2025」(以下、全日本インカレ)に出場し、12月7日に行われた3位決定戦で筑波大学をセットカウント3-1で破り、初となる全国大会第3位入賞という快挙を成し遂げた。

試合は第1セットを落とす苦しい展開となつたが、続く第2セット以降は守備の安定と多彩な攻撃を軸に主導権を握り、見事な逆転勝利を収めた。さらに、キャプテンの堤亜里菜選手(英米語学科4年/共栄学園高等学校出身)がMIP賞(最も印象的なプレーを見せた選手)に選出されたほか、大平麗愛選手(日本語学科3年/共栄学園高等学校出身)が「スパイク賞」を受賞。個人としてもチームとしても高く評価される結果となつた。堤選手は「目標であった全日本インカレでの優勝に届かなかつたことは悔しかつた。でも、最後は勝てて3位入賞という結果を残せたことは、良かつた。この悔しさを後輩たちに託したい」と語つた。大平選手は「自分が受賞する

とは思つていなかつたので、素直に嬉しい。確実に点を決められるということはチームメイトのおかげ。これからは、自分がチームを引っ張つていき、来年こそは全日本インカレ優勝をめざしたい」と語つた。

太田豊彦監督は、「今回の3位は、日々の練習に励んできた部員一人ひとりの努力に加え、ご支援いただいた多くの関係者の皆さまの応援によるもの。女子バレー ボール部は、今後もさらなる飛躍をめざし、活動を続けていく」と力強く語つた。

**令和7年度天皇杯・皇后杯JVA全日本バレー ボール選手権大会初のファイナルラウンドで堂々の健闘!**

体育会女子バレー ボール部は、12月11日から開催された国内最高峰のトーナメント「令和7年度 天皇杯・皇后杯JVA全日本バレー ボール選手権大会 ファイナルラウンド」に登場した。

初戦でVリーグ所属のカノアラウエーズ福岡と対戦。持ち味である粘り強い守備と勢いのある攻撃を發揮し、3-0のストレート勝ちを収めた。続く2回戦は、SVリーグ所属の群馬グリー

ンウイングスと対戦。果敢に挑み続けたが、0-3で惜しくも敗退となつた。

今回、チームとして初のファイナルラウンド進出を果たし、多くの観客の前で堂々とプレーを披露したこと、明海大学体育会女子バレー ボール部の存在感を大いに示す大会となつた。

尾崎俐名エジンネ選手(英米語学科2年/船橋市立船橋高等学校出身)は、「大事なところでミスが増えてしまい悔しい結果となつた。この経験を活かし、先輩たちが作り上げてきた歴史を塗り替えられるよう、次につなげていきたい」と大会を振り返つた。



試合の様子

**2025年度秋季関東大学女子1部バレー ボールリーグ戦準優勝!**

体育会女子バレー ボール部は、2025年度秋季関東大学女子1部バレー ボールリーグ戦において、10勝1敗という安定した戦績を収め、見事準優勝に輝いた。また、キャプテンの堤選手はリーグを通して安定したプレーを続け、「ベストスコアラー賞」と「敢闘選手賞」をダブル受賞した。攻守にわたる存在感はもちろん、チームを鼓舞し、まとめるリーダーシップも高く評価された。

今回の準優勝は、選手一人ひとりの努力とチームの結束が生んだ成果であり、明海大学女子バレー ボール部の今後の飛躍を大いに期待させるシーズンとなつた。

# 不動産学部が日本不動産研究所と新協定を締結 — 研究交流の深化と専門人材育成の強化へ —

12月10日、浦安キャンパスにて、不動産学部と一般財団法人日本不動産研究所は「研究交流及び専門人材の育成協力に関する協定」を締結した。本協定は、2007年に締結した研究交流協定を再構築し、不動産分野における専門人材育成を一層推進することを目的

としている。

締結式では、本学の中嶋裕学長と、日本不動産研究所の宮内豊理事長が署名を行い、長年にわたり築いてきた両者の連携を新たなステージへと進める決意を共有した。

今回の協定では、共同研究の推進、

研究者・講師の派遣やセミナーの共同開催、研究資料や成果物の交換など、幅広い連携事項が定められており、今後は日本不動産研究所からの講師派遣や教材提供など、教育面での協力も強化され、不動産分野における実践的かつ高度な専門教育の充実が期待される。

## 《連携協力事項》

- ① 不動産に関する学際的・実践的なテーマについて、共同研究を推進する。
- ② 相互の研究者及び講師・教員の派遣、セミナーの共同開催等の交流を図る。
- ③ 研究に必要な資料、図書等を交換する。
- ④ 学術研究にかかる論文、出版物等の成果物を交換する。

本学不動産学部は、産学連携を通じた研究の発展と人材育成のさらなる推進に取り組み、社会の発展に寄与していく。



中嶋裕学長(左)、宮内豊理事長(右)

## 第55回 けやき祭

10月11日・12日の2日間、坂戸キャンパスにて「第55回けやき祭(学園祭)」を開催した。今年のテーマは「Beyond(その先へ)」。各部活・同好会による作品展示をはじめ、ステージではオーケストラ部および軽音楽部による演奏が披露され、来場者を魅了した。また、のど自慢大会や人気お笑い芸人によるライブも催され、会場は終始多くの人で賑わいを見せた。さらに、歯学部の特色を生かした体験企画として、骨密度測定や口腔微生物測定を実施し、健康への関心を高める機会となった。

2日間を通して幅広い世代の方々にご来場いただき、学生たちの日頃の活動成果を広く発信する場となつた。



体験企画の様子

## 第38回 明海祭

11月2日・3日の2日間、浦安キャンパスにおいて「第38回明海祭(学園祭)」を開催した。今回のテーマは「Canvas」。新たな思い出や体験が描かれるスタート地点となり、来場者の記憶に残る明海祭にしたいという学生の思いが込められている。期間中は、学生団体による模擬店、ステージ発表をはじめ、各学科の特色を活かしたポスター・セッションや、学生活動および社会実践教育活動の成果発表など、多彩な企画が実施された。

また、今年で8回目となるラジオ局 BAYFM78 の人気番組「あしたの音楽」公開収録を、吹奏楽部、ジャズ・オーケストラ部、ダンスサークル「Rabbit」とのコラボレーション企画として行い、会場は大いに盛り上がった。

さらに、昨年誕生した明海祭公式キャラクター「めかくん」は、当日のグリーティングに加え、事前の広報・宣伝活動でも活躍し人気を集めた。当日は「めかくん」オリジナルグッズの販売も行われ、参加者から好評だった。



円形ステージで演技をするダンスサークル「Rabbit」

# 歯学部教員の研究成果と学会受賞が相次ぐ

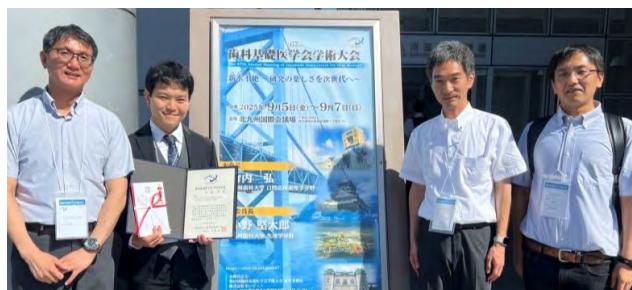
歯学部では、基礎から臨床まで幅広い研究領域において成果が認められ、複数の教員が国内の主要学会で表彰されるなど、学術的な活躍が続いている。ここでは、9月から10月にかけての主な受賞を紹介する。

## 田邊元助教

### 第67回歯科基礎医学会学術大会

#### 「第36回学会奨励賞(微生物学部門)」受賞

まず、9月5日～7日に開催された第67回歯科基礎医学会学術大会では、スポーツ歯学分野の田邊元助教が「第36回学会奨励賞(微生物学部門)」を受賞した。研究テーマは「歯垢細菌DNAによる抗菌ペプチド LL-37 の不活性化機構と自然免疫の誘導」。細菌由来DNAが炎症応答を引き起こすメカニズムを解析した新規性の高い研究であり、若手研究者としての今後に大きな期待が寄せられる。



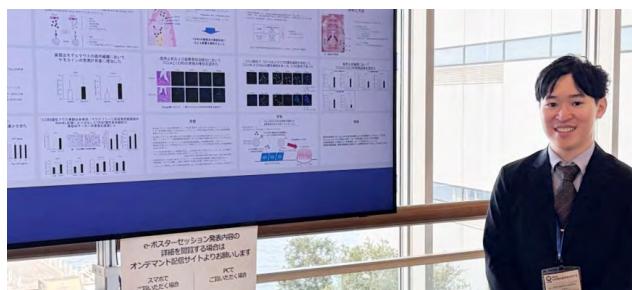
田邊元助教授(左から2番目)

## 山根佑介助教

### 第25回日本歯科医学会学術大会

#### 「若手研究者部門ポスター賞」受賞

続いて、9月26日～28日に行われた第25回日本歯科医学会学術大会では、歯周病学分野の山根佑介助教が「若手研究者部門ポスター賞」を受賞した。「マウス歯周炎モデルにおけるケモカイン CCL4・CCL7 と受容体 CCR5 を介した歯槽骨吸収」をテーマとした基礎研究で、歯周炎の進行メカニズムの解明に貢献する内容が高く評価された。



山根佑介助教授

## 湯川未郷助教

### 第84回日本矯正歯科学会学術大会

#### 「優秀演題賞」受賞

また、9月29日～10月1日に札幌で開催された第84回日本矯正歯科学会学術大会では、歯科矯正学分野の湯川未郷助教が「優秀演題賞」を受賞した。演題は「舌縮小術と多分割 LeFort I 型骨切り術を組み合わせた骨格性開咬症例の報告」であり、複合的な外科的矯正治療の治療計画と術後評価に関する臨床的価値の高い研究成果として注目を集めた。



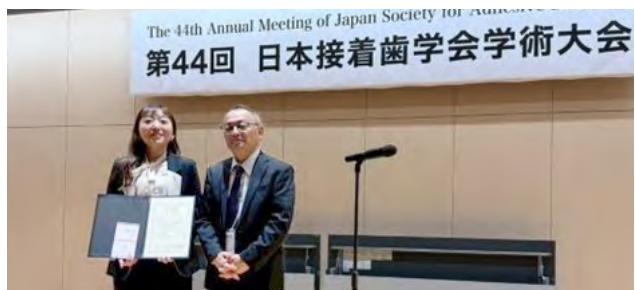
湯川未郷助教

## 三浦賞子准教授

### 第44回日本接着歯学会学術大会

#### 「第43回日本接着歯学会学術大会発表優秀賞」受賞

最後に、10月25日・26日に開催された第44回日本接着歯学会学術大会において、クラウン・ブリッジ補綴学分野の三浦賞子准教授が、前年大会での研究に対し「第43回日本接着歯学会学術大会発表優秀賞」を受賞した。補綴治療を支える接着技術に関する研究が評価されたものであり、本分野の発展に寄与する成果となった。



三浦賞子准教授(左)

これらの受賞は、本学歯学部の研究力の高さと教育・研究環境の充実を示している。基礎研究から臨床応用に至るまで多様な領域で成果が挙がっており、今後の学術的発展にも大きな期待が寄せられる。

## ウェスタンケープ大学が来学 さくらサイエンスプログラムで交流

10月7日、海外協定校である南アフリカ・ウェスタンケープ大学(以下、UWC)



ウェスタンケープ大学一行と歯学部教員

の教員1人と学生7人が、本学歯学部坂戸キャンパスを訪問した。菊池建太郎学生部長による歓迎の挨拶の後、本学オリジナルの法被を記念として贈呈。UWCの一行は笑顔で袖を通し、和やかな雰囲気の中で記念撮影が行われた。

一行はその後、本学教員による講義を受講し、キャンパス内の施設や付属病院を見学。最新設備や教育環境について熱心に質問が交わされ、短時間ながら充実した交流の機会となった。

今回の来学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する「さくらサイエンスプログラム」によるものである。海外の若い世代が日本の科学技術や文化に触れ、将来の国際的なつながりを育むことを目的としており、本学とUWCの継続的な交流を一層深める機会となった。

本学では今後も、学生が世界とつながり学びを広げる国際交流を積極的に推進していく。

## 海外協定校からの訪問相次ぐ—坂戸キャンパスで国際交流を実施

この秋、歯学部の海外交流プログラムにより、まず中国の北京大学口腔医学院(研修生6人・引率教員)による訪問が10月30日から31日にかけて行われ、浦安キャンパスのPDI浦安歯科診療所見学、坂戸キャンパスでの講義と付属病院見学、さらに歓迎ランチパーティーを通じて本学学生や教職員と活発な交流がなされた。

続いて、11月5日から6日にかけては、イタリアのシエナ大学から研修生2人と引

率教員を迎えて、坂戸キャンパスで本学の国際交流・教育・研究活動について紹介を受け、付属病院を見学。その後浦安キャンパスに移動し、学長表敬訪問およびPDI浦安歯科診療所を見学した。こちらも昼食会を含む交流で、教職員・学生間の親交を深める機会となった。

本学歯学部では、費用を全額大学が負担する奨学海外研修制度により学生を派遣するとともに、協定校からの研修生受け入れる交換研修プログラ

ムを定期的に実施。国際的な視野を持つ歯科医師の育成をめざす取り組みを、さらに強化していく。



付属病院見学の様子

## HT学部 駐日ルクセンブルク大公国大使ミシェル・レーシュ氏による特別講義を実施

11月29日、ホスピタリティ・ツーリズム学部は駐日ルクセンブルク大公国大使ミシェル・レーシュ氏を迎えて、「プレゼミニアルII-b」にて特別講義を実施した。本講義では、学生が各国の歴史・文化・外交への理解を深め、国際感覚を養うことを目的とし、毎年、海外大使を招いた特別講義を行っている。

レーシュ大使は、神奈川県ほどの国土規模ながら欧州の要衝として重要な位置を占めるルクセンブルクの概要を紹介し、唯一の「大公国」という政治体制や中世城塞都市としての

歴史、多言語社会の特色について解説した。さらに、国内公共交通機関の完全無料化に象徴される先進的な政策、高いGDPを基盤とした経済、豊かな自然と食文化など現代的な魅力にも触れ、学生たちは熱心に耳を傾けていた。加えて日本との関係では、皇室と大公家の交流、2027年に迎える外交関係100周年、ワーキングホリデー制度開始など若い世代に身近な話題も紹介され、学生たちは国際交流への関心が一層高まった様子であった。

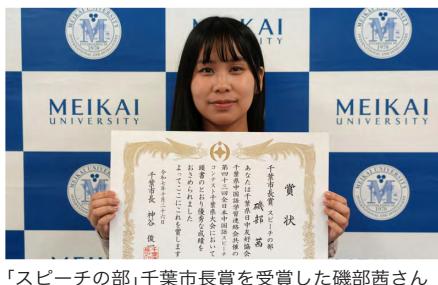
本学では、今後も各国大使館や国際機関と連携し、世界の多様な価値観に触れる国際教育の機会を積極的に提供していく。



ミシェル・レーシュ氏(前左)と三輪HT学部長(前右)・HT学部の学生たち

## 第43回全日本中国語スピーチコンテスト(千葉県大会)で中国語学科学生3人が入賞

10月26日、千葉市民会館において、千葉県日中友好協会・千葉県中国語学習連絡会主催「第43回全日本中国語スピーチコンテスト千葉県大会」が開催され、中国語学科の学生3人が各部門で



「スピーチの部」千葉市長賞を受賞した磯部茜さん

入賞した。

「スピーチの部」では、4年生の磯部茜さん(二松學舎大学附属高等学校出身)が千葉市長賞を受賞。中国茶専門店でのアルバイト経験を踏まえ、贈り物に対する日中の文化的差異を紹介するスピーチを披露し、質疑応答でも落ち着いた受け答えで高い評価を得た。磯部さんは「今回の受賞はたくさんの先生方のお力添えのおかげです。とても感謝しています。留学で学んだ成果を形にしたいと思いコンテスト参加を決めました。初め

ての外部大会で緊張しましたが、先生方の顔を見て落ち着き、力を發揮できました。他の出場者の発表を聞き自身の未熟さも実感したので、今後も中国語を磨いていきたいです」と感想を述べた。

また、「朗読の部 大学生の部」では、流暢な発音と豊かな表現で聴衆を引き込んだ2年生の塩生可憐さん(東京都立江北高等学校出身)が千葉県日中友好協会会长賞を、2年生の仕黒菜桜さん(霞ヶ浦高等学校出身)は成田市長賞を受賞した。

## 日本語学科 文科省に「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として登録

外国語学部日本語学科が2025年10月31日付で文部科学省に、「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として登録された。

近年、在留外国人の増加に伴い、日本語教育の質を確保する仕組みが不十分であることや、専門性を有する日本語教師の質的・量的確保が不十分といった課題が指摘されている。これを受け、文部科学省は新たに日本語教育機関を認定する制度と認定日本語教育機関で日本語を指導することができ

る「登録日本語教員」の資格制度を設けた。「認定日本語教育機関」の日本語教員となるためには「登録日本語教員」の資格が必須となり、資格取得のためには日本語教員試験の基礎試験と応用試験の合格および実践研修の修了が求められる。

この度、「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として登録されたことにより、外国語学部日本語学科では2026年度入学生から、「登録日本語教員」国家資格取得をめざし

て「登録日本語教員養成課程・登録実践研修課程」の科目を履修することが可能となった。また、同課程を修了することで基礎試験が免除になり、応用試験に合格することで「登録日本語教員」の資格を取得することが可能となる。

本学では、これまでの長年にわたる日本語教員養成の実績を基に、今後は「登録日本語教員養成機関」として、多様化する日本語教育の現場に応えるべく、社会の要請に沿った人材育成を推進していく。

## あけみ英語村 秋空の下、平野小学校6年生と英語で交流

明海大学教職課程センター・地域学校教育センターでは、足立区との教育連携事業の一環として「明海大学あけみ英語村～小学生異文化交流プロジェクト～」を実施している。これは、小学生に英語と異文化交流の機会を提供するとともに、本学教職課程を履修する学生にとって、実際の教育現場に近い環境で学びを深める貴重な実践機会となっている。

今回、足立区立平野小学校の6年生約80人が浦安キャンパスを訪れ、秋

空の下での芝生ランチを皮切りに、外国人留学生を含む学生スタッフと英語での自己紹介やゲーム、キャンパスツアーを楽しんだ。子どもたちは積極的に英語でコミュニケーションを取り「英語って楽しい!」という声があがるなど、学びへの意欲が高まる様子が見られた。

一方で、本プロジェクトに参加した教職課程の学生からは「子どもたちの笑顔に触れ、教師になりたいという思いがさらに強くなった」との声が寄せられ、教育者を志す学生にとって大きな

励みとなったことが感じられた。

本学は、今後も足立区との継続的な連携を通じて、地域に根ざした教育活動を進めるとともに、将来の教員養成およびグローバル人材育成へ貢献していく。



屋外アクティビティの様子

## 浦安キャンパス 公開講座開催

# 桃太郎オフィスと学ぶ「高齢化社会」と「不動産」 —今から知っておきたい、親子で準備する円満相続—



講演する泰道氏(左)と中瀬氏(右)

11月3日、浦安キャンパスで公開講座『桃太郎オフィスと学ぶ「高齢化社会」と「不動産」—今から知っておきたい、親子で準備する円満相続—』が開催された。本学では、地域社会との交流や学術・研究成果の還元を目的に、社会的関心が高く本学教員の研究領域

とも関連するテーマを中心に公開講座を開催している。

今回は講師にYouTubeで人気を集めている不動産鑑定士「桃太郎オフィス」の中瀬桃太郎氏と泰道征憲氏を迎えた。「桃太郎オフィス」の両氏は、多様な切り口で不動産の魅力や実務知識を

自身のYouTubeチャンネルで発信するほか、不動産相続や売買に関する豊富な経験も持つ。

当講座では、不動産相続に対する基本的な考え方から、実務に基づいた具体的な相続対策までを総合的に解説した。実例を交えながら、不動産相続の仕組みや準備の要点など、相続に取り組む前段階で押さえておくべき基礎知識を整理した内容となつた。

持ち家やマンションなどの不動産相続は、高度経済成長期に住宅を取得した世代から次世代へ引き継がれつつある現在、親世代・子世代の双方にとって身近で重要なテーマとなっており、相続という観点から実は人々の身近にある「不動産」について改めて考える機会となつた。

## 浦安キャンパス市民講座開催

# 親子で楽しむ、英語とクリスマス文化体験

2025年度事業計画として掲げている「開かれた大学づくりの推進」の一環として、地域交流と社会貢献活動を目的に、市民向けの講座をこれまでに4回実施した。最終回にあたる第4回は、12月6日に「Merry MEIKAI Christmas!～親子で学ぶ!英語で体験するクリスマスパーティー～」をテーマに開催した。今回は英米語学科のKeiko Nakamura教授、多言語コミュニケーションセンターのPatrizia M.J. Hayashi教授、Tyson Rode准教授が講師を務め、英語圏のクリスマスにちなんだ物語の紹介やbingoゲーム、クリスマスソング歌唱など、様々な活動を通じて英語や外国文化を学ぶ内容となつた。

物語紹介では、日本との違いを感じ

ながら外国のクリスマスについて理解を深めようと親子が真剣に耳を傾ける姿が見受けられ、bingoゲームでは、学んだ英単語を聞き取りながら取り組む子どもたちのはじける笑顔が印象的であった。クリスマスソング歌唱では

音楽に合わせて親子で身体を動かし、会場全体が温かな雰囲気に包まれた。

200人を超える親子が参加した本講座は、多くの笑顔と交流が生まれ、充実した催しとなつた。



講座の様子

## 明海大学病院「歯科医療連携人間ドック」がふるさと納税返礼品に

明海大学病院が行う「歯科医療連携人間ドック」が、坂戸市のふるさと納税返礼品として新たに採用された。

近年、口腔内の状態と全身疾患は相互に様々な影響を及ぼしていることが明らかにされており、歯科の疾患を予防することで全身の健康管理にもつながることを理解してもらうため、この人間ドックでは、口腔内と全身疾患の状態の双方から、健康状態を評価する。

返礼品には、半日で基本的な歯科・医科検査を行うAコースと、Aコースの検査に複数の専門的な検査を追加し、1日かけて検査を行うBコースの2コースを用意。Bコースでは事前に申請したい

ずれか1項目についての専門的な歯科相談も受けられる。

明海大学病院は歯学部付属病院として、学術研究の成果を基盤に多様な

専門外来を設置し、地域医療に貢献してきた。今回、返礼品として採用されたことで、さらに全国の寄付者の健康づくりや医療の発展にも寄与していく。

コース	Aコース	Bコース
寄付金額	5万5,000円	11万円
検査内容	パノラマエックス線検査、う蝕(むし歯)検査、歯周病検査、かみ合わせ検査、口腔がん・口腔粘膜疾患検査、頸部エコー検査、血圧検査、喉頭・咽頭がん内視鏡検査	Aコースの検査内容に加え、口臭検査、唾液検査、唾液分泌量検査、骨密度検査、精密聴力検査、眼底三次元画像検査、飲み込みや咀嚼の機能低下のご相談やいびき・睡眠中の無呼吸のご相談などの事前に申請した専門的な歯科相談いずれか1項目

## 2026年度入学試験日程一覧

### ■浦安キャンパス　外国語学部／経済学部／不動産学部／ホスピタリティ・ツーリズム学部／保健医療学部

入試区分名			出願期間	試験日	合格発表日	
一般選抜	A日程	全学科	1月 8日(木)～1月19日(月)	2月 1日(日)	2月10日(火)	
	統一試験			2月 2日(月)		
	B日程	全学科		2月 3日(火)		
大学入学共通テスト利用選抜	A日程	全学科	2月 7日(土)～2月18日(水)	3月 1日(日)	3月 6日(金)	
	B日程	全学科	1月 8日(木)～1月19日(月)	1月17日(土)・18日(日) (大学入学共通テスト)	2月10日(火)	
	C日程	全学科	2月 7日(土)～2月18日(水)		3月 6日(金)	
	D日程	全学科	2月23日(月)～3月 3日(火)	3月17日(火)	3月17日(火)	
総合型選抜(AO)	D日程	全学科	2月23日(月)～3月 3日(火)	3月14日(土)	3月17日(火)	

●お問い合わせ先 浦安キャンパス入試事務室 TEL:047-355-5116

### ■坂戸キャンパス　歯学部

入試区分名		出願期間	試験日	合格発表日
一般選抜	統一試験※	1月 8日(木)～1月19日(月)	2月 3日(火)	2月10日(火)
	A日程	1月15日(木)～1月23日(金)	1月31日(土)	
	B日程	2月 9日(月)～2月20日(金)	3月 2日(月)	
一般選抜 (共通テストプラス方式)	A日程	1月15日(木)～1月23日(金)	1月31日(土)	2月10日(火)
	B日程	2月 9日(月)～2月20日(金)	3月 2日(月)	3月 5日(木)
大学入学共通テスト利用選抜	A日程	1月15日(木)～1月23日(金)	1月17日(土)・18日(日) (大学入学共通テスト) 1月31日(土)(面接試験)	
	B日程	2月 9日(月)～2月20日(金)	1月17日(土)・18日(日) (大学入学共通テスト) 3月2日(月)(面接試験)	
	C日程	2月25日(水)～3月 6日(金)	1月17日(土)・18日(日) (大学入学共通テスト) 3月14日(土)(面接試験)	

※歯学部の一般選抜(統一試験)の試験会場は、浦安キャンパスとなります。

●お問い合わせ先 歯学部入試事務室 TEL:049-279-2852

詳細は入学者選抜試験要項をご確認ください。資料請求は本学公式HPから。<https://www.meikai.ac.jp>

